

令和4年度第2回 大和市文化財保護審議会 会議録

日時：令和5年2月15日（水）
午後1時45分～15時10分
大和市文化創造拠点シリウス 6階
610大会議室

出席者等

委員 (4名)	◎金子 皓彦、○鈴木 通大、坂本 要、神崎 直美 (欠席：田中 徳久委員)
事務局 (3名)	文化振興課長、市史・文化財係長、市史・文化財係職員 1名
傍聴者	なし

◎…会長 ○…職務代理者

公開・非公開の状況

■公開 □非公開 □一部非公開

会議次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 令和4年度郷土民家園指定管理事業の報告について 資料2
 - (2) 令和4年度文化財保護事業の報告について 資料3
- 3 その他
- 4 閉会

会議要旨

※新型コロナウイルス感染対策の一環として、事務局の資料説明を省略

- 2 議事
 - (1) 令和4年度郷土民家園指定管理事業の報告について
指定管理者が作成した事業報告（資料2）について質疑応答。新型コロナウイルスの影響は続いているが、来園者数などは回復傾向にある。今回の聴取事項をもとに当該年度の指定管理業務の管理運営状況の評価をおこなう。
 - (2) 令和4年度文化財保護事業の報告について
事務局が作成した事業報告資料3について質疑応答。少ない人員で手広く事業をやっている。委員の意見を参考にして、次年度も事業にあたってもらいたい。
- 3 その他
市指定天然記念物ケヤキ（下和田）について

2 議事

(1) 令和4年度郷土民家園指定管理事業の報告について

△郷土民家園指定管理者が作成した令和4年度郷土民家園指定管理事業の報告資料2について質疑応答。

【総括】

□限られた予算と人数の中でよくやっている。委員の意見を参考に今後も運営にあたってもらいたい。事務局にはただいまの委員の意見を集約してもらい、来年度におこなう指定管理施設の管理運営状況の評価用の資料を作成してもらいたい。

【学校の団体見学時の見学内容について】

□多くの小学校が郷土民家園を利用しているが、園内の見学ルートや職員による説明・その内容、滞在時間について教えてほしい。
△事務局で確認している内容としては、大人数の団体の場合、いくつかのグループに分かれ、順に園内を見学してもらっている。その際、職員が解説をおこなっている。

【学校の団体見学について】

□学校の団体見学は、指定管理者や市から呼びかけて見学に来てもらっているのか。
△基本的には、学校から見学の申し出が入り次第、対応している。
□古民家を見たいという要望は多くあると思われるため、近隣市町村の古民家（別紙参照）と連携したり、指定管理者や市から学校へ、古民家の利用・見学を働きかけたらよいのではないか。

【市内外の小学校の見学について】

□市外の小学校の見学は多いが、市内の学校の見学が少ない。市内の学校の方が来やすいこともあり、市から広報するなど働きかけたらよいのではないか。

【実演を伴う事業について】

□年中行事や自主事業を実施した際に来園者数が増えている。その中で、人形浄瑠璃や舞踊などの動的な実演を伴う事業を積極的に取り入れていくのがよい。郷土民家園でそのような事業をおこなうことで、伝統的な生活を見ると同時に芸術的なものを見ることができるようになる。
□人形を見せるだけでもおもしろいため、小学校が見学する際にボランティアで人形を見せるなど、できるだけお金がかからない形でやるのがよいのでは。
□公演までいなくても、市との共催という形で実施するのはどうか。
△人形浄瑠璃と舞踊については、令和4年度に自主事業として実施している。市との共催については可能だと考えられるが、指定管理者と協議の上、協力していく形になる。

令和4年度の実績を見ても当該事業実施時の来園者数が非常に多く、効果が大きいことがわかる。そのため、今後もこれらの事業を継続できるよう指定管理者と話し合いたいと思う。

【来園者数や団体見学数からみる新型コロナウイルスの影響】

□令和4年度は新型コロナウイルスの流行や感性対策に伴う規制があったにもかかわらず、来園者数などは右肩上がりである。そのため、今後の規制緩和も考えると、来園者数や団体見学数にも期待が持てるのではないかと。

△文化財関連事業はほぼ復活している。今後の規制緩和によって徐々に参加者数が増えていくことが予想されるため、既存の事業を継続していくとともに、新規事業も実施していく。

【食関連の体験、実演事業について】

□味噌づくりは参加者数が多く、人気事業であることがうかがえる。そのため、年に複数回できるのか。

□食を主とした事業を展開する博物館も増えており、文化関連の事業は郷土関係の食べ物へと主軸が移ってきている。

□泉の森園内の水車を利用して、穀物を使った食べ物を作ったり、加工するなどの体験、実演の事業をおこなうのはどうか。

△水車を使った精米と糺摺りの事業は継続して実施しているが、令和4年度の見学者は5名と少ない。そのため、意見・指摘を指定管理者と共有し改善していきたい。

□関連してもちつきなどの事業も実施できるのではないかと。

□新型コロナウイルスの影響で、その場で食べ物を食べる事業が中止になっていたこともあり、今後の規制緩和によっては実施していくのもよいのではないかと。

【事業の広報について】

□郷土民家園では毎月事業を実施しているが、タウンニュースで毎月取り上げてもらうことはできないのか。現在の広報頻度が低く感じる。

△指定管理者に確認できていないが、取材を受けても掲載されるかどうかは媒体側で判断されるため、掲載頻度の調整は難しい。しかし、広報していくことは重要だと認識しているため、これからも力を入れていきたい。

□毎週・毎日決まった時間にFMやまとで広報してもらうことはできないのか。

△FMやまとに打診することはできるが、放送内容に入れ込むかどうかはFMやまとが判断することであるため、調整は難しい。

(2) 令和3年度文化財保護事業の予定について

△事務局より資料3-1「令和3年度 文化財保護事業の予定」、資料3-2「大和市指定文化財一覧」、資料3-3「郷土民家園事業予定」について説明。

【総括】

□少ない人員で手広く事業をやっている。委員の意見を参考にして、本年度も事業にあ

たってもらいたい。

【上和田薬王院の薬師如来像について】

□薬王院の仏像の調査はどのくらい進んでいるのか。

△元東京国立大学の山本先生がどこかでこの薬師如来像を目にされ、平安時代までさかのぼる仏像ではないかと思われた。薬王院の隣にある信法寺の住職、市史・文化財係職員、山本先生でお話をする機会があり、山本先生から薬師如来像の調査をしたいとの話があった。薬師如来像の日常的な管理は信法寺がおこなっており、市が連絡を取ったり間に入るなどして調査の調整をおこなうこととなった。調査はまだ具体的に進んでいない状況である。

【信法寺記録について】

□文化財として貴重な資料であるため、今後どのように扱っていくのか。

△信法寺記録は、上和田薬王院の隣にある信法寺に残されている記録である。綴りで三冊残っており、過去に市史で翻刻をおこなっている。信法寺だけでなく、周辺地域に関する記述もあり、今後大和州市史資料叢書に掲載することを検討している。

□翻刻までおこなったにもかかわらず、市史に掲載されなかったのはなぜか。

△詳細は不明だが、おそらく市史の発刊に間に合わなかったのではないかと推測される。

【歴史の日について】

□歴史の日に伴って実施した講座や展示の対象はどのくらいの年齢層を想定して実施したのか。

△講座は大人向けの内容で、展示は市内の古い映像や絵本の展示をおこなったため子どももある程度楽しめる内容だったと思われる。歴史の日のコンセプトを考えた場合、次回以降は、すべての年齢層の方にPRできる事業にしていく必要がある。

□体験できるものなどの子どもが楽しめるコーナーを1ブースでも設置すればよいのではないかと推測される。

【講座、展示の題名について】

□歴史の日関連講座・展示、つる舞の里歴史資料館企画展の題名について、真面目な題名ばかりであるため、もう少し砕けた題名にしてはどうか。来園者、参加者からみた印象も違ってくると思われる。

△行政的な性質上固い題名になってしまいがちであるため、親しみやすい題名にできるよう考えていきたい。

3 その他

【市指定文化財「下和田のケヤキ」の寄附について】

△以前にも審議会でも報告させて頂いた、所有者から指定解除を希望されていた市指定史跡名勝天然記念物のケヤキ（下和田）について、昨年の夏所有者から土地とともに木を市へ寄附できないかとの相談があった。今後市が管理することを検討するため、越

境枝や法律上剪定が必要な部分について樹勢に影響がないか調査をおこなっていく。
同時に、指定解除については保留とする。

【ポケット学芸員について】

□つる舞の郷歴史資料館でポケット学芸員を活用しているが、市民にポケット学芸員の
利用について案内したことはあるのか。

△ポケット学芸員は収蔵品管理システム I. B. museum に付属するもので、まだうまく活用
できていない状況である。音声や動画なども利用できるため、内容の充実を課題とし
て準備していこうと考えている。